



令和3年度 京都市立東山泉小中学校 学校評価アンケート

社会「確かな生き抜き力」、「力豊かな育心成」「健やかな身体」を育む	①	自分の意見や思いを筋道を整えてまとめ、相手に正しく分かりやすく伝える力（論理的思考力）を育成している。
	②	自ら意欲的に学び、仲間との対話を通して学びを深めたりするために、9年間を通してコミュニケーション能力を育成している。【「主体的・対話的で深い学び」の実現】
	③	生命を大切にする心や他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等を身に付けさせている。【道徳の授業の充実】
	④	将来の夢を語ることができるようにするために、自分たちの地域を愛し、京都から日本へ、そして世界に目を向けた視点で考えを深めさせている。【総合的な学習の時間の充実】
	⑤	将来にわたってスポーツに親しむために、保健体育の授業、運動部活動等を通して、その資質や能力を育成している。
	⑥	「給食」、「食育」の授業、「泉いきいきセミナー」「薬物乱用防止教室」等の取組を通して、子どもたち自身に心身の健康を考えさせ、自己管理の能力を育成している。【健康教育の充実】
	⑦	たくさんの情報から重要なものの選びだし、自ら問い合わせ立て、それを解決するために、他の人と協働しながら新たな価値を生み出していくための資質や能力を育成している。
東山泉の『小中一貫教育』について	⑧	5・4制施設併用型の義務教育学校として、6年生から7年生への進級に対する不安を解消するために、教科担任制を取り入れるなどしてスムーズに移行できるように工夫している。
	⑨	人と人との絆や人のために役立つことの大切さを実感するために、9学年の縦割り活動を通して、互いを認め合い、励まし合う集団作りを進めている。
	⑩	9年間の学習をつなぐために、「学びのみちしるべ」（全学年の全教科・領域の授業計画や内容）や「学びのスタンダード」（共通した学習スタイル）をもとに、授業を進めている。
	⑪	統合により3つの元学区が東山泉学区となったが、学校と地域が互いに連携した教育活動を進めるために、自治会行事などへの参加を奨励している。

【設問①②より】

設問①では、前期の達成度において「とてもそう思う」「そう思う」の回答が両学舎とも60%でしたが、後期の達成度では、「とてもそう思う」「そう思う」の回答が西学舎が約70%、東学舎が約65%となり、両学舎とも上昇が見られました。これは、コロナ禍の状況の中でも、自分の考えを構築してそれを他者に発信する活動を、活動方法を工夫しながら、授業や児童生徒会活動などの様々な場面で積み重ねてきたことによる成果だととらえています。

設問②では、前期の達成度において「とてもそう思う」「そう思う」の回答が西学舎が約60%、東学舎が約70%でしたが、後期の達成度では、「とてもそう思う」「そう思う」の回答が西学舎が約70%、東学舎が約75%となり、両学舎とも上昇が見られました。本校では、研究主題を「小中協働による主体的・対話的で深い学びの実現～メタ認知を鍛える学びと見取り～」とし、1年間研究を進めてきました。授業を通して何がわかったのか、何ができるようになったのかを自覚（メタ認知）することが、次への学びに生かされ、主体的に学び続ける力の育成に繋がっているととらえています。

令和3年度も、メタ認知に焦点をあてた研究を継続し、ICTの効果的な活用や、家庭学習の習慣化を図る取組にも力を入れながら、教育活動を進めていきたいと考えています。

【設問⑧より】

「5・4制施設併用型義務教育学校の取組」に関する設問⑧の重要度は、「とてもそう思う」「そう思う」の合計が、前期・後期において両学舎とも約80%でした。義務教育学校としての取組に、高い期待を寄せていただいていることがわかります。それに対して達成度は、西学舎が前期・後期ともに50%強、東学舎が前期約60%・後期70%強と、重要度と比べて低い数値となっています。特に、5年生から6年生への進級に対して、西学舎から東学舎へと学舎が変わり、学習環境が変化することへの不安が、子どもたちにも保護者の方々にも依然として見受けられます。この不安の解消が、本校の課題だととらえています。

一方、義務教育修了を目前にした9年生アンケートからは、義務教育学校での学びを肯定的にとらえる記述が多く見られます。「6年生から定期考査を経験することで、学習の仕方が身につき、進路実現につながった。」「かっこいい9年生の姿が身边にあり、自分の目標をもつことができた。」「1~8年生という多くの後輩がいることで、かっこいい先輩になりたいという気持ちが大きくなり、成長できた。」等、義務教育学校で学ぶことで「成長できた」「力がついた」と感じてくれていることがわかります。学年が上がるにつれて実感できることも多くありますので、学年が下の子どもたちに先輩の思いを伝えることも重要だと感じています。子どもたちの思いを発信する場面を、積極的に設定していきたいと考えています。

令和3年度も、5・4制施設併用型義務教育学校として、本校ならではの価値を追求し、開校8年目の「東山泉・成長期」として、より一層の取組の充実を図っていきたいと考えています。また、本校での9年間の学びについて、子どもたち、保護者や地域の方々にご理解いただけるよう、発信を続けて参ります。